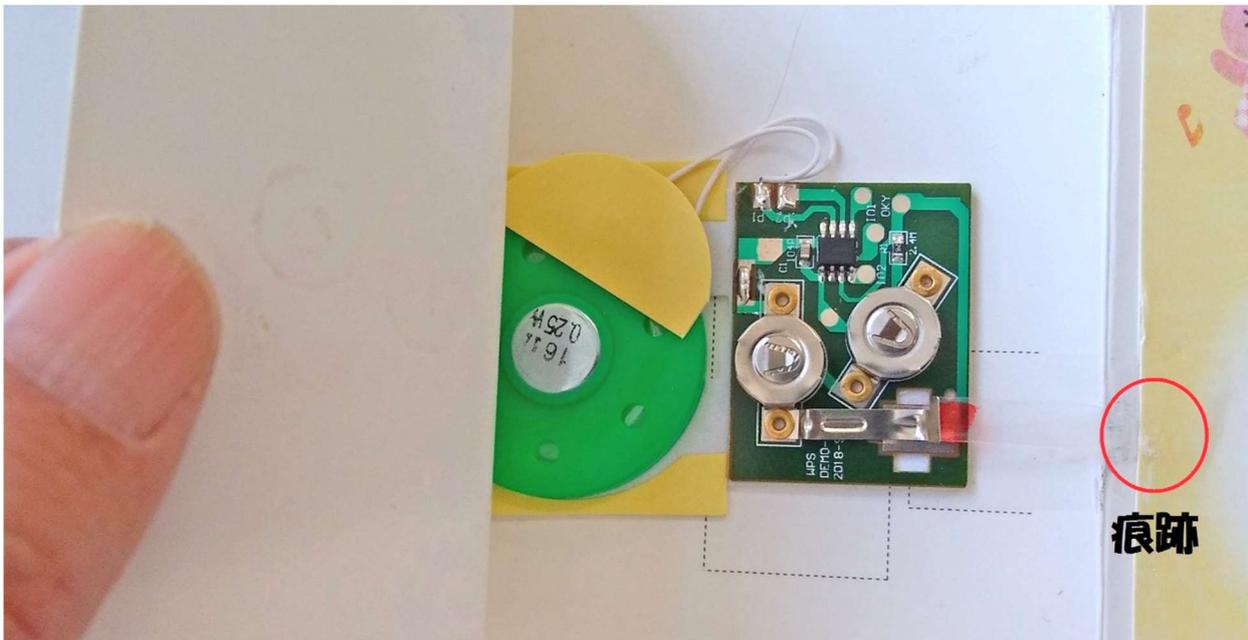


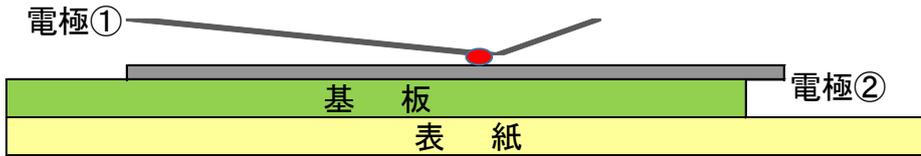


ミュージックカードと呼ぶのだそうです。  
お誕生日用は「ミュージックバースデイカード」。  
貰った人がカードを開くと、「♪ ハッピーバースデイ ♪」と曲が流れる筈です。

依頼品は、音楽が鳴らなくなっていました。  
左右共、カードが袋綴じになっています。左のページがやや厚めです。  
縁を剥がして開いてみました。



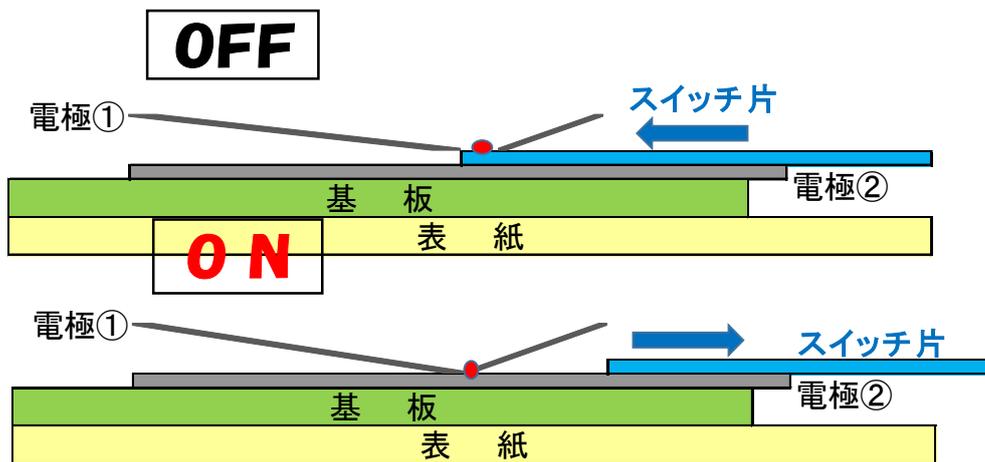
非常に薄く作られた演奏のパーツです。  
中央左にφ50ミリのスピーカーがあります。  
右隣の基板には、ボタン電池が2個、そしてIC回路が見えます。  
スピーカー、電池には問題ありませんでした。残るは、「スイッチ」か「IC」か？  
さて、基板の下部に横向きにあるのがスイッチのようです。  
たどって行くと、右頁の絵の境目に、透明なシールの様なものの痕跡がありました。  
こことスイッチを結びつけるものがあったようです。  
薄く目立たないものようです。  
スイッチ部分をしたからのぞいて見ると、  
模式図のような断面の仕組みが見えました。



表紙の上に基板。  
 その上に幅5ミリ、長さ30ミリほどの2枚重ねの電極①②があります。  
 ①と②は絶縁されていますが、①は板バネで赤丸の部分で②に接して、  
 導通しています。  
 逆にこの部分を離せば、電量は流れなくなる筈です。  
 試しに一旦①と②を離して、また接すると曲が流れました。  
 どうやら、二つの電極の間に電気を通さない物を出し入れすれば良いようです。思い付いたのは、電池の消耗を防ぐために、電池の接点に差し込むプラの小片です。



プラ容器を刻んで作ったものを持っていました。  
 下図のように、スイッチ片をカードの右頁に取り付け、カードの開閉に従って、二つの電極の間に出入りさせれば、曲が鳴ったり、止まったり出来るでしょう。(プラの小片です。透明で分かりにくいので、紛れないように赤いマークを付けてあります)



プラ片に折目(タテ2本赤線)を入れ、右頁の下に差し込んで接着しました。折目は頁の境目より少し右側です。こうする事でプラ片は、頁を閉じると左へ、開くと右へスライドして、電極①と②の間に出入りし、スイッチの役目を果たします。曲も開閉に合わせてなんとか鳴ってくれました。問題は、プラ片の折目がいつまで長持ちしてくれるかです。その度に曲げたり伸ばしたりするのですから。オリジナルのものも、恐らくちぎれて無くなったのでしょう。目立たず折り目の丈夫な素材は一体あるのでしょうか？

